

法学研究 第七十七卷

(平成十六年
至十二号)

総目次

論 説

号 頁

「学問の危機」と経験……………一 一 蔭 山 宏

—西郷信綱『古典の影』に寄せて—

相互理解についての一考察……………一 三 霜 野 壽 亮

多文化交錯社会オーストラリアの市民意識の動態……………一 曇 関 根 政 美

戦後日本社会のアイデンティティ論……………一 七 有 末 賢

—重層的アイデンティティに向けて—

ニュース分析の視点……………一 〇 三 大 石 裕

—内容分析と言説分析—

核家族化再考……………一 二 三 平 野 敏 政

—三代世帯選択率について—

ある社会学者の闘い……………一 一 奴 藤 田 弘 夫

—P・A・ソロキンの数奇な生涯—

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| ヒロシマを歩く…………… | 一 三毛 滉木 正崇 |
| —慶應義塾大学被爆者調査再訪— | 一 三毛 滉木 日出夫 |
| 「階級」概念は時代遅れか?…………… | 一 禹 松村 高夫 |
| —イギリス社会史におけるポスト・モダニズムとその批判的検討— | 一 三毛 滉木 隆 |
| 戦前期における日本百貨店の植民地進出…………… | 一 三毛 滉木 平野 隆 |
| —京城（現・ソウル）の事例を中心に— | 一 三毛 滉木 竹村 英樹 |
| 戦間期都市教員層の生活構造…………… | 一 三毛 滉木 松井 清樹 |
| 北アイルランド紛争における「宗教」の位置…………… | 一 三毛 滉木 吉原 直樹 |
| グローバル化と瞬間的時間の機制…………… | 一 三毛 滉木 中重好 |
| —情報都市論の構築に向けて— | 一 三毛 滉木 田中 重好 |
| 戦後日本の地域的共同性の変遷…………… | 一 三毛 滉木 阿久津昌三 |
| —埋め込み・脱地域化・埋め戻し— | 一 三毛 滉木 本和孝 |
| シンガポール社会学再論…………… | 一 三毛 滉木 鹿又伸夫 |
| 社会調査方法論の再検討…………… | 一 三毛 滉木 真鍋 一史 |
| —異文化理解と文化人類学のディスクール— | 一 三毛 滉木 阿久津昌三 |
| 通文化比較調査および国際比較調査の方法論的課題…………… | 一 三毛 滉木 鹿又伸夫 |
| —調査の等価性の問題を中心に— | 一 三毛 滉木 鹿又伸夫 |
| カテゴリカル地位達成分析にむけて | 一 三毛 滉木 鹿又伸夫 |
| —初職達成分析の試み— | 一 三毛 滉木 鹿又伸夫 |

一啓蒙期国際法理論研究の手掛かりとして—			
国際航空法における地域主義の動向（一）	八	長田祐卓	三
吉本隆明の初期思想（二・完）	八	兎石川晃司	一
債務引受と債権譲渡・差押の競合	九	池田真朗	
一括決済方式における債権譲渡方式と併存的債務引受方式の比較を契機に—	九		
ジヤン＝ジャック・ルソーによる「国際法」理論構築の試みとその挫折（二）	九	畠明石欽司	
一啓蒙期国際法理論研究の手掛かりとして—	九		
国際航空法における地域主義の動向（二・完）	九		
党、紅軍、農民（一）	十		
一閩西根拠地、一九二九年～一九三四年—	十	高橋伸夫	一
中国三峡ダム建設における利益誘導	十	長田祐卓	三
一「三峽省」から重慶直轄市へ—	十	林秀光	四
ジヤン＝ジャック・ルソーによる「国際法」理論構築の試みとその挫折（三）	十	毛明石欽司	一
一啓蒙期国際法理論研究の手掛かりとして—	十		
マンハイムとラジオ	十一		
一BBC放送における連続講義、「倫理」および「社会学とは何か」—	十一	一澤井敦	一
党、紅軍、農民（二・完）	十二	高橋伸夫	三
一閩西根拠地、一九二九年～一九三四年—	十二	明石欽司	一
ジヤン＝ジャック・ルソーによる「国際法」理論構築の試みとその挫折（四・完）	十二		
一啓蒙期国際法理論研究の手掛かりとして—	十二		
民主主義の論理と価値	十三		

根岸政治学に関する若干の考察	一私的回顧と憲法学からの管見	光恒
政治哲学は何を優先的に論じるべきか	堺施	光恒
根岸毅教授の「政治学方法論と民主主義論」を手かかりとして—	士三	士三
民主主義・再行主義・政治教育	蓮見二郎	士三
英國の「地方税財政制度とアカウンタビリティ	大山耕輔	士三
全面的半直接民主制に関する一考察	河野武司	士三
民主主義と法	西川理恵子	士三
確信犯人の処遇に関する比較刑事政策論序説	加藤久雄	士三
一九・一一テロ事件以後の「テロリズム」の変化と政治的確信犯人に対する	西川理恵子	士三
刑事政策的対応を中心にして—	西川理恵子	士三
行政法学者から見た日本型民主主義の現状と課題	藤原淳一郎	士三
民主主義社会における株式会社の営利性と公益性	加藤修	士三
訴権について	坂原正夫	士三
「政治」の中のメディア言説	大石裕	士三
—水俣病新聞報道に関する一考察—	斎藤和夫	士三
「剩余主義・消除主義・引受け主義」をめぐる若干問題	小林良彰	士三
—競売における「先願位」抵当権の処遇原理—	斎藤和夫	士三
Previous Researches on Japanese Politics	小林良彰	士三

最終講義

- 学者山に登るが如し 五 丸川合隆男
 ーわたしの社会学との出会いと近代日本社会学史研究ー
 價値多元化社会における政治権力のあり方 六 小鷺見誠一
 ーヨーロッパ精神史を手がかりとしてー

研究ノート

- 団体訴訟制度の意義および問題点 二 河村好彦
 ー処分権主義・弁論主義の適用などを中心としてー
 ドイツ法における物上代位の理論的展開 五 王水斎藤和郎夫
 ーその一起点たるE. WINDMÜLLERの類型論ー

資料

- 非常勤裁判官(調停官)制度の導入所感 二 石川明
 EUにおける書籍拘束価格をめぐる攻防 三 曽田貴行／訳
 ー果てしなき物語?ー
- ドイツ語圏諸国における組織犯罪・資金洗浄関係文献 四 宮澤浩一

〔商法〕

四三九 商法二六条一項の商号の続用に当たるとされた事例

四四〇 商法五九五条と場屋営業者の不法行為責任

五二二 垣池島真策
五二三 岡本智英子

四四一 株式会社の代表取締役が同社を代表し、自らが代表取締役を兼任する関連会社に対して金融支援を行なつたことにつき商法二六六条一項四号に基づく責任が否定された事例

四四二 代位求償権不行使条項の効力

一 株式会社の株式を共同相続した相続人の一人が他の相続人と株式を遺産共有する状態で当該会社の会計帳簿の閲覧謄写等を求めることが可否
二 株式会社の株式を共同相続した相続人の一人が株主の権利の確保または行使に関する調査として当該会社の会計帳簿の閲覧謄写等を求めることができるとされた事例

学校法人が法科大学院新校舎建設工事のためキヤンバス内に既存する建物等を解体・移築することにつき、建物等の製作に関与した米国人芸術家から著作物に関する一切の権利を承継したとする米国財團等からなされた解体・移築工事差止の仮処分申立てが却下された事例

四四五 違法な自己株式取得（買受）についての取締役の会社に対する責任
商法二八〇条の二第二項の求める株主総会決議なくしてなされた新株の有利発行についての取締役の会社に対する責任

四五六 保険事故内容の不実通知による保険者の免責

四五六 無権代理人が契約した火災共済契約を本人が追認した場合、その無権代理人によって故意に起こされた保険事故につき、保険者の免責が認められた事例

七二三 藤田祥子
七二四 鈴木達次
七二五 謙訪野大
七二六 杉田貴洋
七二七 井智明

商法二二二条ノ二（平成一三年改正前）による自己株式の買賣について、定期株主総会決議を経た上で株主と会社との売買契約が締結された後に取締役会決議で売買価額が変更された場合、会社は変更後の内容の債務を負うときは事例

十一 二五 来住野 究

れた事例

〔最高裁民訴事例研究〕

- 三八六 平一五一 最高裁民集五七巻一号七四頁
 三八七 平一五二 最高裁民集五七巻六号六四〇頁
 三八八 平一五三 最高裁民集五七巻一〇号一五三一頁
 三八九 昭三二三 最高裁民集一〇巻四号二九七頁

三 金 渡 辺 森 児
 四 八 三 上 威 彦
 五 三九 坂 原 正 夫
 八 二〇 川 嶋 隆 憲

〔下級審民訴事例研究〕

- 株主代表訴訟中に株式交換により完全親会社の株主となり訴訟対象会社の株主の地位を喪失した者は原告適格を喪失するとされた事例
 51 東京高裁平成一五年七月二四日判決、取消、却下・上告（東京高裁平一五（ネ）七九二号）損害賠償請求控訴事件、判例時報一八五八号一五四頁

一 二元 小 原 将 照

〔民集未登載最高裁民訴事例研究〕

民事訴訟法研究会

- 遺言執行者による推定相続人の廃除の申立てを却下する審判に対し他の推定相続人である参加人が即時抗告をすることの許否
 9 推定相続人廃除申立て却下決定に対する許可抗告事件 平成一四年七月一二日最高裁第二小法廷決定（最高裁平一四（評）第二号）（裁判集民事二〇六号八一五頁、判例時報一八〇五号六一頁）

二 二四 石 渡 哲

- 不動産競売申立書の被担保債権額の記載と配当表における是正の可否

十三 中島 弘雅

特別記事

- 川合隆男教授略歴・主要著作一覧
樹中毅君学位請求論文審査報告
中谷美穂君学位請求論文審査報告
中谷瑾子先生追悼記事
吳東鎬君学位請求論文請求審査報告
田口精一君学位請求論文審査報告
段瑞聰君学位請求論文審査報告
林紘一郎君学位請求論文審査報告
島原宏明君学位請求論文審査報告
根岸毅教授略歴・主要業績

一四九
卷三
三七
三五
三三
三一
三八
十九
三土
三士